



寺川教授近影

寺川眞知夫教授 略歴 主要著書・論文目録

略歴

昭和一八年

兵庫県朝来市生れ

学歴

昭和三七年

三月 兵庫県立八鹿高等学校普通科卒業

昭和三八年

四月 神戸大学文学部入学

昭和四二年

三月 神戸大学文学部国文学専攻卒業

昭和四三年

四月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻修士課程入学

昭和四七年

三月 同志社大学大学院文学研究科国文学専攻修士課程修了・学位文学修士を授与される

平成 九年

五月 学位博士（文学）（神戸大学 博ろ第八号）を授与される

免許資格等

昭和四二年

四月 高等学校教諭二級普通免許（国語・昭四二高二普第二三〇号）受領

昭和四七年

五月 高等学校教諭一級普通免許（国語・昭四七高一普第二二号）受領

平成 八年

八月 大学設置・学校法人審議会教員組織審査 同志社女子大学大学院文学研究科日本語
日本文化専攻修士課程教授「日本文学特殊研究Ⅰ」M④

平成一一年

九月

大学設置・学校法人審議会教員組織審査 同志社女子大学大学院文学研究科日本語
日本文化専攻博士課程（後期）教授「日本文学特別研究Ⅰ」D④

平成二六年四月 同志社女子大学名誉教授の称号を授与される。

職歴

昭和四二年 四月 兵庫県立武庫高等学校（定時制）国語科教諭に任命される

昭和四六年 四月 神戸学院女子短期大学非常勤講師を委嘱される（昭和四九年三月迄）

昭和五三年一〇月 金蘭短期大学非常勤講師を委嘱される（平成一年三月迄）

昭和五四年 三月 兵庫県立（定時制）武庫高等学校を依願退職する

昭和五四年 四月 花園大学文学部専任講師に任命される

昭和五五年 六月 樟蔭女子大学文学部非常勤講師を委嘱される（昭和五九年三月迄）

昭和五六年 四月 花園大学文学部助教教授に任命される

昭和五九年 四月 花園大学学生部長・評議員を委嘱される（昭和六〇年三月迄）

昭和六〇年 四月 樟蔭女子大学文学部非常勤講師を委嘱される（昭和六三年三月迄）

昭和六二年 四月 姫路市立生涯学習大学校非常勤講師を委嘱される（平成六年三月迄）

昭和六三年 三月 花園大学を依願退職する

昭和六三年 四月 同志社女子大学短期大学教授に任命される

昭和六三年 四月 花園大学文学部非常勤講師を委嘱される（平成一年三月迄）

平成 一年 四月 同志社女子大学短期大学部日本語日本文学科長を委嘱される（平成六年三月迄）

平成 一年 四月 同志社女子大学学芸学部非常勤講師を委嘱される（平成九年三月迄）

平成 七年 四月 同志社女子大学短期大学部部長を委嘱される（平成九年三月迄）

平成 七年 四月 光華女子大学文学部非常勤講師を委嘱される（平成一三年三月迄）

- 平成 九年 四月 同志社女子大学学芸学部教授及び同大学院文学研究科日本語日本文化専攻教授に任命される（大学設置学校法人審議会教員組織審査修士課程教授^㉔）
- 平成 九年 四月 同志社女子大学短期大学部非常勤講師を委嘱される（平成一二年三月迄）
- 平成 九年 四月 同志社女子大学リベラル・アーツ委員長を委嘱される（平成九年四月迄）
- 平成 九年 五月 同志社女子大学企画広報部長を委嘱される（平成一一年一二月迄）
- 平成一二年 一月 同志社女子大学企画部長を委嘱される（平成一三年三月迄）
- 平成一二年 四月 同志社女子大学大学院文学研究科日本語日本文化専攻博士（後期）課程教授に任命される（大学設置学校法人審議会教員組織審査博士後期課程教授^㉕）
- 平成一二年 四月 大谷大学非常勤講師を委嘱される（平成一四年三月迄）
- 平成一三年 四月 同志社女子大学学芸学部長・同志社女子大学大学院文学研究科長を委嘱される（平成一八年三月迄）
- 平成一三年 四月 奈良女子大学大学院人間文化研究科非常勤講師を委嘱される（平成一六年三月迄）
- 平成一三年 七月 財団法人奈良県万葉文化振興財団理事・同万葉古代学研究所所長（非常勤）を委嘱される（平成二三年三月迄）
- 迄
- 平成一四年 四月 同志社大学大学院文学研究科嘱託講師を委嘱される（平成一七年三月迄）
- 平成一四年 四月 同志社女子大学学芸学部情報メディア学科主任を委嘱される（平成一六年三月迄）
- 平成一五年 九月 高知大学人文学部非常勤講師を委嘱される（九月二二日～二五日集中講義）
- 平成一八年 四月 同志社女子大学教育推進センター長を委嘱される（平成二〇年三月迄）
- 平成一八年 四月 同志社大学文学部文化学科国文学専攻嘱託講師を委嘱される（平成二〇年三月迄）
- 平成二〇年 四月 同志社大学文学部国文学科嘱託講師を委嘱される（平成二四年三月迄）

平成二二年 三月 同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科ならびに大学院文学研究科日本語日本文文化専攻博士課程（前期・後期）教授を定年退職する

平成二二年 四月 同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科ならびに大学院文学研究科日本語日本文文化専攻博士課程（前期・後期）特任教授に任命される

平成二二年 五月 梅花学園理事を委嘱される（現在に至る）

平成二六年 三月 同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科ならびに大学院文学研究科日本語日本文文化専攻博士課程（前期・後期）特任教授を定年退職する

所属学会

昭和四三年 四月 万葉学会会員（現在に至る）

昭和四三年 六月 古事記学会会員（現在に至る）

昭和四五年 四月 説話文学会会員（現在に至る）

昭和四五年 四月 訓点語学会会員（平成二五年三月迄）

昭和四六年 五月 国語学会会員（平成一五年三月迄）

昭和四八年 四月 古代文学会会員（現在に至る）

昭和四九年 七月 美夫君志会会員（現在に至る）

昭和四九年 八月 伝承文学研究会会員（平成二五年三月迄）

昭和四九年一〇月 全国大学国語国文学会会員（現在に至る）

昭和五〇年 七月 日本文学協会展員（平成二五年三月迄）

昭和五四年 四月 仏教文学会会員（現在に至る）

- 昭和五五年 四月 上代文学会会員（現在に至る）
 昭和六三年 四月 仏教文学会常任委員（平成二五年五月迄）
 平成 一年 七月 古事記学会評議員（平成一七年三月迄）
 平成 六年 四月 仏教文学編集委員（平成九年三月迄）
 平成 六年 六月 和歌文学会会員（平成二五年三月迄）
 平成 七年 九月 説話文学会委員（平成二五年五月迄）
 平成 八年 七月 古事記学会理事（現在に至る）
 平成 九年 四月 上代文学会理事（平成二五年五月迄）
 平成二二年 六月 仏教文学編集委員（平成一六年五月迄）
 平成一三年 七月 全国大学国語国文学会理事（一九九年六月迄）
 平成一九年 七月 全国大学国語国文学会常任委員（事務局担当 平成二三年六月迄）
 平成二三年 七月 全国大学国語国文学会常任委員（平成二五年六月迄）

寺川真知夫業績書

〔単行書〕

- 『日本国現報善悪霊異記の研究』 和泉書院 一九九六年 三月
 『古事記神話の研究』 塙書房 二〇〇九年 三月
 大神神社監修『三輪山の大神主神さま』 東方出版 二〇一〇年 一月

〔共編著〕

新井栄蔵・寺川眞知夫・渡辺貞麿共編 『叡山の和歌と説話』

世界思想社

一九九一年 七月

坂本信幸・寺川眞知夫・丸山顕徳共編 『古代の歌と説話』

和泉書院

一九九一年一月

石橋義秀・寺川眞知夫・廣田哲通・三村晃功編 『仏教文学とその辺』

和泉書院

一九九八年 六月

〔論文〕

(雑誌)

『日本霊異記』の原撰年時について

国文神戸 第二号

一九七二年 六月

少子部連の伝承形成について

兵庫国漢 第一九号

一九七三年 三月

説話と事実 —— 『霊異記』下の三五縁をめぐって ——

同志社国文学 第九号

一九七四年 二月

『日本霊異記』上巻第七縁の「賈」は「贖」の省文か

説話文学研究 第九号

一九七四年 六月

説話と昔話・氏族伝承

古代文化 第二七卷第八号

一九七五年 八月

老僧観規は私度僧か —— 奈良中期以後の官僧の一面 ——

解釈 第二一卷第九号

一九七五年 九月

椎の葉に盛る飯 —— 有間皇子の一四二番歌の解釈 ——

解釈 第二二卷第一号

一九七五年 一月

秋山の樹の下隠れ逝く水

解釈 第二二卷第二号

一九七六年 二月

『霊異記』下巻六縁と『三宝絵』及び『今昔』

同志社国文学 第一一号

一九七六年 二月

山部宿禰赤人歌の『みさひ』と『なのりそ』 —— 卷三、三六二番歌 ——

兵庫国漢 第二三号

一九七七年 三月

説話の方法 —— 霊異記と伊勢物語の女が鬼に食われた話 ——

水門 第一〇号

一九七七年 四月

道場師譚の形成

序文・文体・説話配列より見たる『靈異記』の性格

『日本靈異記』中卷二三縁の形成

景戒と表相

尾張の力女譚の形成と伝播

亀報恩譚の土着

『日本靈異記』下卷二三縁の形成

『靈異記』における大安寺関係説話の考察——中卷第二四縁を中心として——

天照大御神——その神名の成立——

天照大御神・高御産巢日神司令型降臨神話の成立——その即位式・新嘗祭・大嘗祭とのかかわり——

御津の崎の恐しき浪——二四九番歌小考——

老婆致富型姥棄伝承と文献

黄泉国と根之堅州国

石之日売の悲しみ

天皇の大御葬に歌う歌

『靈異記』蟹報恩譚の考察

額田王の祭儀歌

萬葉 第九七号

水門 第一一七号

花園大学国文学論究 第七号

花園大学国文学論究 第八号

花園大学紀要 第一二七号

花園大学国文学論究 第九号

花園大学国文学論究 第一一七号

花園大学国文学論究 第一二七号

花園大学国文学論究 第一三三号

花園大学国文学論究 第一四四号

花園大学国文学論究 第一五五号

花園大学国文学論究 第一五九号

花園大学国文学論究 第一五九号

花園大学国文学論究 第一五九号

花園大学国文学論究 第一五九号

花園大学国文学論究 第一五九号

花園大学国文学論究 第一五九号

花園大学国文学論究 第一五九号

花園大学国文学論究 第一五九号

一九七八年 六月

一九七八年 八月

一九七九年一〇月

一九八〇年一月

一九八一年 三月

一九八一年一〇月

一九八三年一〇月

一九八四年一〇月

一九八五年一〇月

一九八六年一〇月

一九八七年一〇月

一九八八年二月

一九八八年二月

一九八八年二月

一九八八年二月

一九八九年 一月

一九八九年二月

一九九〇年 三月

一九九〇年二月

大神氏の祭祀権掌握伝承

大美和 第八三号

一九九二年 七月

万葉集の露——人麻呂の表現とその背景——

美夫君志 第四六号

一九九三年 三月

人麻呂歌の水泡と経典

仏教文学 第一七号

一九九三年 三月

石清水八幡と文芸

国文学 解釈と鑑賞 第七二四号

一九九三年 三月

神身離脱を願う神の伝承——外来伝承を視野に置いて——

仏教文学 第一八号

一九九四年 三月

仏像靈異譚の受容と変容——日本靈異記のばあい——

同志社国文学 第四一号

一九九四年一月

『万葉集』の橘——その表現の展開——

同志社女子大学日本語日本文学 第七号

一九九五年一月

『続日本紀』の宗教

古代文学 第三五号

一九九六年 三月

密教の修法と説話——空海と丹生・高野明神と——

説話文学研究 第三一号

一九九六年 八月

天神諸と『古事記』冒頭部

古事記年報 第三九号

一九九七年 一月

春秋優劣歌の表現手法

同志社女子大学日本語日本文学 第九号

一九九七年一月

禅師の恋

同志社国文学 第四八号

一九九八年 三月

『古事記』国譲の神話——国譲要求の論理——

文学・語学 第一五九号

一九九八年 五月

天浮橋の構造と機能

萬葉 第一六八号

一九九九年 三月

仁徳紀聆鹿鳴伝承の意味

文芸論叢(大谷大学) 第五六号

二〇〇一年 三月

天津罪国津罪考

祭祀研究 第二号

二〇〇一年一月

近江荒都歌——その表現の背景——

万葉古代学研究所年報 第一号

二〇〇三年 三月

万葉集に見える仏教の諸相

駒沢大学佛教文学研究 第六号

二〇〇三年 三月

中国モデルの庭園の受容と基盤

日本文学 第五二卷五号

二〇〇三年 五月

日向神話の設定			
旅人の讃酒歌——情と理——			
『万葉集』の宴を題詞にもつ歌(第一回万葉古代学研究所主催共同研究報告)	万葉古代学研究所年報 第三号	二〇〇五年	三月
日本における舍利伝承の展開——敏達紀から『今昔物語集』まで——	万葉古代学研究所年報 第三号	二〇〇五年	三月
大穴牟遲神と稲羽の素菟	万葉古代学研究所年報 第四号	二〇〇六年	三月
稲荷社の二つのいわれ	上代文学 第九七号	二〇〇六年	一月
万葉歌と文学意識	大伊奈利 第一七二号	二〇〇六年	一〇月
伝統和歌の開花と叙情詩の登場——『万葉集』第二期	ポトナム 第八三卷一—号	二〇〇六年	一月
万葉集の相聞歌と声の歌	国文学 解釈と鑑賞 第七二卷第三号	二〇〇七年	三月
古代三輪家の人々講演録	同志社女子大学日本語日本文学 第一九号	二〇〇七年	六月
稲荷大社の縁起と神仏習合	大美和 第一一二号	二〇〇七年	一月
タカミムスヒ・アマテラス・伊勢神宮——皇祖神の変化の意味するもの——	朱 第五〇号記念特集	二〇〇七年	二月
歌人人麻呂の背景	万葉古代学研究所年報 第五号	二〇〇七年	三月
沈痾自哀文と思文	上代文学 第九九号	二〇〇七年	一月
高市皇子挽歌誦詠の場と儀式——憶良の日本挽歌を参考に——	万葉古代学研究所年報 第六号	二〇〇八年	三月
万葉人の自然観	万葉古代学研究所年報 第六号	二〇〇八年	三月
	ポトナム 第八五卷一—号	二〇〇八年	一月

野見宿禰の埴輪創出伝承

万葉古代学研究所年報 第七号

二〇〇九年 三月

額田王考

ポトナム 第八六卷八(一〇〇〇号)

二〇〇九年 八月

土橋寛氏の古代歌謡研究

國學院雑誌 第一一〇卷第一一号

二〇〇九年 一月

狭岑の嶋の石中死人を視て作る歌

万葉古代学研究所年報 第八号

二〇一〇年 三月

『万葉集』作者不記載巻四巻にみる日本文学の特性

国語と国文学 第八八卷第二号

二〇一一年 二月

柿本人麻呂の旅——人麻呂は旅において風土をどのように表現したか——

万葉古代学研究所年報 第九号

二〇一一年 三月

古事記の成立論について——偽書説をめぐって——

國學院雑誌 第一一二卷一一号

二〇一一年 一月

伊弉岐能山の神と倭建命——言向・言拳を視野に入れて——

万葉古代学研究所年報 第一〇号

二〇一二年 三月

『万葉集』の相聞の性格

萬葉 第二一三号

二〇一二年 一月

大物主神の出現——三諸山の神大物主神はなぜ海から出現するのか——

大美和 第一二五号

二〇一三年 七月

池睿訳「《沈痾自哀文》的特徴」(《沈痾自哀文と患文》(二〇〇八年三月)の要点を押さえ纏めなおしたもの)

王曉平主編『國際中國文學研究叢刊』第二集

二〇一三年 一〇月

『万葉集』冒頭歌二首にみる古代人の心

ポトナム 第九〇卷一二号

二〇一三年 二月

「大物主神の神名と性格」

大美和 第一二六号

二〇一四年 一月

「魂振の飛鳥宮都」

万葉古代学研究所年報 第一二号

二〇一四年 三月

(書籍)

「捉雷縁」の仏教的意味——固有神の衰微を説く話—— 島田勇雄先生退官記念『ことばの論文集』

前田書店

一九七五年 三月

『仁徳記』の枯野伝承の形成 上田正昭編『土橋寛先生古稀記念日本古代論集』

笠間書院

一九八〇年 九月

『靈異記』の文字考証——上卷三縁の金杖と二十八縁の破損文字—— 島田勇雄先生古稀記念『ことばの論文集』

前田書店

一九八一年 一月

『方広経』靈験譚の考察——『靈異記』下巻四縁の場合—— 『日本靈異記の世界』

三弥井書房

一九八二年 六月

因果の具現——『日本靈異記』の場合—— 浜千代清・渡辺貞磨編『日本文学と仏教思想』

世界思想社

一九八四年 五月

景戒と外教 黒沢幸三編『日本靈異記——土着と外来』

三弥井書房

一九八六年 六月

上代説話の結集 池上洵一・藤本徳明共編『説話文学の世界』

世界思想社

一九八七年 一月

群書類従本『耀天記』大宮縁起の考察 新井栄蔵・三村功晃・渡辺貞磨共編『叡山の文化』

世界思想社

一九八九年 六月

瓊岳と伊企難 神田秀夫先生喜寿記念古事記・日本書紀論集

統群書類従刊行会

一九八九年 二月

神話・伝説と説話

説話と説話文学の会編『説話論集』第一集

清文堂

一九九一年 五月

説話の外来と土着

本田義憲・池上洵一他編『説話の講座——説話とは何か』

勉誠社

一九九一年 五月

- 琴御館宇志丸伝承の考察 新井栄蔵・寺川眞知夫他編『叡山の和歌と説話』
世界思想社 一九九一年 七月
- 景戒の夢解と仏性の認識 坂本信幸・寺川眞知夫他編『古代の歌と説話』
和泉書院 一九九一年 一月
- 雌鳥皇女・女鳥王伝承の性格と形成——「反逆」伝承の公開と氏族—— 梅沢伊勢三先生追悼・記紀論集
続群書類従刊行会 一九九二年 三月
- 大国主神の国作の性格と大国主神の形成 古事記学会編『古事記研究大系四 古事記の神話』
高科書店 一九九三年 六月
- 天照大御神の高天原統治の完成 上田正昭編『神々の祭祀と伝承』
同朋社 一九九三年 六月
- 相応和尚像の変貌 新井栄蔵・後藤昭雄編『叡山をめぐる人々』 世界思想社
一九九三年 一〇月
- 寺社縁起 古橋信孝・三浦佑之他編『古代文学講座 一一 霊異記・氏文・縁起』
勉誠社 一九九五年 六月
- 因果応報——日本霊異記 伊藤博・今成元昭他編『仏教文学講座五 物語・日記・随筆』
勉誠社 一九九六年 五月
- 霊魂観と伝承形成——書紀と霊異記と—— 説話と説話文学の会編『説話論集』 第六集
清文堂 一九九七年 四月
- 仏教的蘇生譚の土着 上田正昭編『古代の日本と渡来文化』 角川書店
一九九七年 四月
- 祝詞『遷却崇神』を奏する祭儀 岡田精司編『古代祭祀の歴史と文学』
塙書房 一九九七年 二月

- 御衣木の祟——長谷寺縁起——石橋義秀・寺川眞知夫他編『仏教文学とその周辺』
一九九八年 六月
- 柿本人麻呂——山辺万葉 和田萃編『古代を考える 山辺の道——古墳・氏族・寺社——』
一九九九年 三月
- 磐姫皇后の相聞歌 神野志隆光・坂本信幸企画編集『セミナー万葉の歌人と作品 第一巻』
一九九九年 五月
- 大八嶋国——その神話的世界としての役割——『大田善磨先生追悼論文集古事記・日本書紀論叢』
一九九九年 七月
- 上代の雨の表記と表現 西宮一民編『上代語と表記』 群書
二〇〇〇年一〇月
- 靈異記下巻第三十九縁とその聖君問答 池上洵一編『論集 説話と説話集』 和泉書院
二〇〇一年 五月
- 悪口歌応酬の理解——袁祁命と志毘臣の闘歌——菅野雅雄博士古稀記念古事記・日本書紀論究
二〇〇二年 三月
- 『靈異記』の欲邪行説話——不姪戒・不邪姪戒と靈験と 説話論集第一一集
清文堂
二〇〇二年 八月
- 崇神天皇の大物主神祭祀 同志社大学国文学専攻創立五十周年 国文学会創立四十周年記念論文集
同志社大学国文学会
二〇〇二年一月
- スサノヲの性格と誓約 上田正昭編『古事記の新研究』 学生社
二〇〇六年 七月
- スサノヲの神性 説話論集第一一六集 清文堂出版
二〇〇七年 七月

神武天皇 古事記小辞典

勉誠社

二〇一二年一〇月

〔書評〕

長野一雄著 『古代説話の文学的研究』

国文学研究 第九二集

一九八七年 六月

松前健著 『古代信仰と神祇文学——その民俗論理——』

古代文化 第四一卷五号

一九八九年 五月

平成六年国語国文学界の展望（Ⅰ）上代・神話

文学・語学 第一四八号

一九九五年一〇月

青木周平著 『古事記の研究』

国語と国文学 第七二卷一二号

一九九五年一二月

工藤隆著 『古事記以前』

日本文学 第六一卷六号

二〇一二年 六月

山口敦史著 『日本靈異記と東アジアの仏教』

大東文化大学日本文学研究 第五十三号

二〇一四年 二月